

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数 11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4671500090
法人名	医療法人 一桜会
事業所名	さくらのお家よしだ
訪問調査日	平成21年8月10日
評価確定日	平成21年9月3日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4671500090
法人名	医療法人 一桜会
事業所名	さくらのお家よしだ
所在地	鹿児島市東佐多町269-2 (電 話) 099-245-5500
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成21年8月10日

【情報提供票より】(平成21年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	15人, 非常勤 2人, 常勤換算 15.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,500 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000円

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	6 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	76 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉留クリニック 吉田温泉病院 西園歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広々とした田園地帯に、ゆったりとしたスペースを確保して建てられたホームである。明るく風通しのよい造りとなっており、安全面にも配慮され、全ての居室から屋外へ出ることができる。母体クリニックとの連携により、医療面での手厚い管理が可能となり、入居者は勿論、ご家族にとっても安心して利用できるホームである。また、行政や地域の他事業所と連携して「地域ケア交流会」を立ち上げており、地域への情報発信や交流も積極的に行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「市町村との連携」、「重度化や終末期に向けた方針の共有」、「災害対策」、「栄養摂取や水分確保の支援」等、前回の改善項目に関しては、ミーティング等で話し合いながら取り組んだ結果、ほとんどの項目で改善が図られている。「プライバシーの確保の徹底」に関しては、言葉遣いの面でやや課題が残るため、引き続き改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価および外部評価を、日々のケアの在りかたを振り返り改善する機会ととらえており、全員で取り組みサービスの質向上を目指している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議ではホームの運営状況や活動内容、評価への取り組みなどの報告を行い、参加者それぞれの立場からの意見や要望、地域の情報などが出され、話し合われた内容がサービス向上に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年2回開催する家族会やご家族の面会の都度、管理者や職員はご家族と向き合い、意見や不満、苦情等を表せるよう努めている。出された意見や要望については、些細な事でも全員で話し合い検討して運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の事業者同士で「地域ケア交流会」を立ち上げ、ボランティア活動を行っている。また、自治会主催の「いきいき地域サロン」にも参加しており、健康増進活動のお手伝いや認知症講座の開催、鬼火焚きや文化祭への作品出品など、入居者とともに幅広く地域の方々と交流している。

2. 評価結果詳細

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らし続けることを、基本理念のサブタイトルとして掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関およびリビングに理念を掲示するとともに、毎日の申し送りやミーティング時に唱和を行い、理解を深めながら日々のケアに反映するように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の事業者同士で「地域ケア交流会」を立ち上げ、ボランティア活動を行っている。また、自治会主催の「いきいき地域サロン」にも参加しており、健康増進活動のお手伝いや認知症講座の開催、鬼火焚きや文化祭への作品出品など、入居者とともに幅広く地域の方々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価および外部評価を、日々のケアの在りかたを振り返り改善する機会ととらえており、全員で取り組みサービスの質向上を目指している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームの運営状況や活動内容、評価への取り組みなどの報告を行い、参加者それぞれの立場からの意見や要望、地域の情報などが出され、話し合われた内容がサービス向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、運営上の相談などを市介護保険課や高齢者福祉課等に行っている。地域包括支援センター職員とは、地域ケア交流会や研修会等で行き来する機会がある。また、介護相談員の受け入れも積極的に行っており、サービスの質向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書に添えて、入居者の写真等を含む近況報告や金銭出納帳の写し等をご家族に定期的にお送りしている。また、ご家族の面会も多く、その際には管理者や職員が積極的にご家族と関わり、新しい職員の紹介等を含めて、随時必要な情報を提供している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回開催する家族会やご家族の面会の都度、管理者や職員はご家族と向き合い、意見や不満、苦情等を表せるよう努めている。出された意見や要望については、些細な事でも全員で話し合い検討して運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者および管理者は、職員の異動による入居者やご家族の不安や不信、不満発生の可能性を十分に理解しており、法人内の異動は最小限に抑えるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修マニュアルに基づき、新入職員のオリエンテーションを実施したり、毎月開催される母体法人の研修会に職員が出席している。ホーム独自の勉強会も適宜実施しているが、法人主催の研修会のような年間計画は作成しておらず、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画も十分とは言えない。	○	母体法人の研修計画同様に、ホーム内の研修についても年間計画を立て、管理者や職員を経験や知識に応じて計画的に育成することを検討していただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しているほか、地域の介護・福祉に関わる事業者および行政が協力して「地域ケア交流会」を立ち上げている。ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等を通じて、サービスの質向上に取り組むとともに、地域へ向けた情報発信を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人やご家族に見学してもらい、入居者や職員と一緒にお茶を飲んでいただいたり、さりげなく自宅を訪問するなどして、馴染みの関係をつくるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者が家族であり人生の先輩であるということを念頭に置いて接している。介護しているという意識ではなく、入居者からの学びを大切に、共に支えあい、学びあい、分ち合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントに加え日々の暮らしの中で気付いたことを職員間で共有し、入居者それぞれの思いや希望に沿うように努めている。帰宅願望のある入居者に対しては、ご家族と協力し、他の入居者と一緒に自宅を訪れる逆デイサービスなどにも取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人およびご家族に加えて、かかりつけ医や看護師等の意見を参考にするとともに、ミーティング等で日頃入居者と接している職員の意見を確認した上で介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しはもとより、対応できない変化が生じた場合はミーティングやカンファレンスで検討し見直しを行っている。必要な場合は、ご家族、看護師、職員間でカンファレンスを行い、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体クリニックとの医療連携による訪問診療や訪問看護をはじめ、外来受診支援、お灸や電気治療、理美容の送迎など多岐にわたる柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人およびご家族の希望するかかりつけ医と協力しながら、適切な医療を受けられるように受診支援を行ったり、かかりつけ医に対して日頃の状況を伝えるなど、連携して取り組んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重要事項説明書に記載している「重度化対応に係る指針」や「看取り指針」を説明し、本人およびご家族の同意をいただいている。重度化した場合には、必要に応じてその都度、かかりつけ医や看護師、ご家族および職員が話し合いをもち、意向を確認した上で全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関しては、運営規程や重要事項説明書において、その取り組み内容を明示し適切に管理している。入居者を人生の先輩として、尊厳の気持ちで接するよう努めているものの、言葉遣いが馴れ合いになることがある。	○	親しみの気持ちを大切にしつつ、入居者の尊厳を損ねることがないように、日々職員間でチェックを行い、ミーティングなどで忌憚のない意見を出し合って改善に取り組んでいただきたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れ(日常生活支援体制)はあるが、その日の体調やペース、生活習慣等を大切にして、出来る限り本人の希望に沿った時を過ごせるように、体制を調整して対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けにおいても、入居者それぞれの能力や状態に応じて、できること、やりたいことを職員と一緒にやっている。ホームの畑で収穫した野菜が食卓を飾ることも多く、会話が弾み楽しく食事がとれるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望や体調、その日の気分にできるだけ合わせて、入浴を楽しむことができるように配慮している。また、順番や時間帯が重なりトラブルとならないよう、チェック表を活用するなどの工夫をしながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や仕事、生活環境、趣味や特技等を把握して、野菜づくりや梅干、ラッキョウ、果実漬け、歌や三味線など、それぞれの方の能力が活かされ、気分転換や楽しみ事となるように場面をつくり支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの中だけで過ごさずに、天気の良い日は庭に出て、周囲の山川や田畑を眺めたり、散歩やお茶会を楽しんでいる。また、買い物や季節を感じる事ができる場所へのドライブなど、希望に沿って戸外に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、鍵をかけることの弊害を十分理解しており、入居者の自由な暮らしのために、居室や玄関、門に至るまで、昼間は施錠していない。見守りを重視し、外出は一緒に行くなど、安全面に配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署立ち会いのもとで、夜間想定を含む消防避難訓練を実施している。地震や台風等の風水害に対応したマニュアルも作成し、日頃から研修や訓練を重ねている。地域との連携として、近隣の事業所を避難場所として確保したり、通報システムの中に地域の方々を含めるなど、協力体制を整備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表の主菜は、法人の管理栄養士が決めている。副菜は各ユニット毎に、畑で収穫した野菜や季節の食材を取り入れて、栄養バランスを考慮しながら調理している。入居者毎の食事摂取量、水分量もチェック表に記録され、食事形態も一人ひとりに応じた形態となっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花が活けられ、廊下には行事の写真や文化祭に出品した作品が飾られている。棚には日付の貼られた梅干や果実漬、ラッキョウ漬等の瓶が並び、生活感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや家具類をはじめ、入居者が使い慣れたものが多数持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるように、ご家族と連携して支援している。どの居室からも田園風景が眺められ、自然光と柔らかな風が入り居心地が良い。		